

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ） 説明書・同意書

※必ず事前にお読み頂いて、裏の同意書にボールペンでご署名下さい。

※検査前日までに確認頂きたいこと※

胃内視鏡検査（胃カメラ）が実施出来ない方

検査前日までに必ずお申し出ください。当日キャンセルについては原則料金が発生いたします。

①歯科麻酔で気分が悪くなったこと（キシロカインアレルギー）のある方

（のどの麻酔は歯科麻酔と同成分のため）

②妊娠中の方、妊娠の可能性のある方

③体重130kg以上の方（検査台の耐荷重量を超えているため）

上部消化管内視鏡検査を受けられる方は、検査内容について十分に理解し、注意事項を厳守した上で、検査を受けていただきます。

目的：	食道・胃・十二指腸（一部）の病気を調べるために行う検査です。
方法：	<p>検査前に胃の泡を消す薬を飲みます。経口内視鏡は喉にスプレー式の麻酔を使用して内視鏡を挿入します。経鼻内視鏡は麻酔薬をつけたチューブを挿入し麻酔をなじませた後内視鏡を挿入します。喉を通るときに違和感がありますが徐々に軽減します。内視鏡を進めながら空気を入れますのでお腹が張ってきます。すべての観察が終わったら、胃内の空気を抜き終了です。検査は5分～10分で終了します。検査後は咽頭麻酔が効いているため、原則1時間は飲食が出来ません。</p> <p>上記のように、検査方法には経口法と経鼻法の二通りがあります。</p> <p>・経口法は、のどの反射がおきる場合があります。</p> <p>・経鼻法は、吐き気が少なくすみませんが、鼻腔の狭い方や鼻炎のある方は通らない場合があります。また、検査後、鼻血が出たり痛みが続くことがあります。</p> <p>検査中に異常が見られたり、病気が疑われたりした場合には、必要に応じて次のようなことが行われます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 診断を確定するため組織の一部を鉗子でつまみとり、組織の検査を行うことがあります。（但し、組織検査は料金が発生するため事前に問診票で実施の希望を確認します）2. 病変部位に色素（体に害はありません）を散布し、病変を明瞭にして診断補助とすることがあります。
偶発症：	<p>内視鏡検査には、まれながら以下のような偶発症が起こりえます。</p> <p>（受診者の体質・体調によることもあります）</p> <ol style="list-style-type: none">1. 咽頭反射による胃食道接合部の裂創及び出血することがあります。2. 内視鏡が、粘膜とこすれる事によるわずかな出血をすることがあります。3. 組織の一部を鉗子でつまみとる事による出血をすることがあります。4. 前処置の薬剤によるアレルギー反応（じんま疹、血圧低下、発熱）を起こすことがあります。5. 極めてまれですが、胃液の誤嚥による肺炎を併発することがあります。6. 極めてまれですが、咽頭、食道、胃、十二指腸に内視鏡で穴があくことがあります。7. 極めてまれですが、検査前からあった病気の悪化（脳血管障害、心疾患等）が起こることがあります。

以上のような「偶発症」は最善の手を尽くしても完全に防止することはできません。予期せぬことまで含めて起こりえる可能性があり、偶発症の程度によっては治療が必要となる場合もあります。

（※偶発症が発生した際の治療費等にかかる経費は有料になります。）

上部内視鏡検査による偶発症に関して日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計（2019～2021年）によると、その頻度は0.076%、死亡率は0.0003%でした。

（裏面もあります）

